

やるせない下戸の嘆き

お酒が飲めないことを知ったのは、大学のゼミの夏合宿だった。初めて口にしたお酒はビール。味は苦く、一口飲むと体はほてり、ついには気分が悪くなった。「練習すれば強くなるよ」と励まされたが、ビールをコップ2分の1でお酒は飲めないと断念し、今に至る。

如何にも飲めそうな私は、お酒をすすめられることが多く、飲み仲間に加われぬわが身は、飲みニケーションを楽しむ人たちがうらやましい。

もしお酒をたしなめたなら、言ってみたい、やってみたいことがある。

まずは、「とりあえずビール!」。お酒は、ビール・日本酒・焼酎・サワー・ワイン・マッコリ・紹興酒など選択肢が多く、「とりあえずビール」と言えるが、ソフトドリンクはごくごく少数に限られていることから、このワードはない。大ジョッキで冷えた生ビールをグイッと飲む姿は、あこがれだ。ソフトドリンクでは、あんな大きなジョッキで何杯も飲むことなど到底不可能だ。

酔いが進むと、大抵は「もう一軒行こう」とハシゴ酒。下戸には、2軒目、3軒目と店を移動することはない。なにせ、飲むより食べることが主体の下戸は、

既におなか一杯なのだ。それに加えて、しらふの間がいては迷惑ではないか、との遠慮もある。

料理ごとにあうお酒があるという。この味は日本酒、これはワインと、みなさん楽しんでいるが、ソフトドリンクにはこれにはこれが、などという料理はない。下戸は、中華だろうがイタリアンだろうが、フレンチだろうが、コーラでという人もいる。私はウーロン茶で、お酒を飲んでいる雰囲気を楽しむためにノンアルコールビールを飲むことも。

なかでもフレンチはいただけない。食前酒にはじまり、お魚には白ワイン、お肉には赤ワインとワイングラスに次から次へお酒が注がれる。下戸は、せいぜいミネラルウォーターのガス入りかガスなし! いやはや、気取った食事など望めない。〇〇年の最高ワインって、どんな味なんだろう。

また、おもしろいことに、お酒にまつわる失敗談には悲壮感がない。下戸には「いやー、失敗しちゃった」なんて、笑える失敗などありようもなく、「終電を逃し、東京のはずれの終点まで寝てしまった」「二日酔いで、翌日は仕事にならなかった」「ガードレールを蹴っ飛ばして足を怪我した」などなど……。笑い話にはことかかない。酔っぱらいは怖いものなし、最強なのだ。

酒に酔えば、つい本音がこぼれる。心を解放し、互いに本音を語り合う飲みニケーションは一時、若者に敬遠されていたが、コロナ禍以降、孤独の中にいた若者たちが参加するようになったとか。先輩の愚痴を聞くのも良し、笑い話に興じるのも良し。下戸には生涯味わえない楽しみだが、せめてほろ酔い気分だけでも味わいたいものである。

